

令和3年度 我が校の学ぶ力向上策(実施計画 改訂版) **赤字は、変更点です(R3.10)**

【市町 目標】

○学校教育令和の四改革「マネジメント改革」
教科マネジメントやカリキュラム・マネジメントを通して、指導と評価の一体化をめざした授業づくりを行い、子どもの学ぶ力を向上させる。

【学校 目標】

○「協働学習を通して主体的に学ぶ子の育成」
～体育科を通して子どもが解決したいと思う課題設定を通して～

【現状と課題】

○視点1 どの学年においても学習意欲に個人差が見られ、学習内容の理解度についても同様のことが言える。
○視点2 望ましい生活習慣や学習習慣の定着が全体的に弱い。
○視点3 子どもたちの個別の課題が多様であることから、学習指導や生活指導において、担任だけではなく、組織での相談や対応が必要になる場合が多い。

取 組		
視点1	視点2	視点3
学びを実感できる授業づくり	学ぶ意欲を引き出す学習集団づくり	子どものために一丸となって取り組む学校づくり
【取組事項】 ○「老西スタイル」(毎時間の授業の流れ:問題提示→気付き・見通し→一人で考える→共学び→一人で考える→ふり返り)が定着するように、課題設定や学習計画づくりを行い、学習意欲を喚起する。 ○技能の習得や知識の理解よりも、教科の特性や良さに触れる学習づくりを行い、学ぶ楽しさを味わわせる。 ○1月毎の重点目標となる「老西っ子12か月プラン」をより子どもたちが主体的に取り組むことができるように改善する。	【取組事項】 ○コロナ禍の制限下の中でも、グループ学習の制限時間である15分間を有効に活用したり、ICT機器を使った交流を行ったりして、本校で取り組んできた子どもが主体の協働学習「共学び」を深める。 ○ICT機器を活用しながら学習環境のユニバーサルデザイン化を行い、どの子も学習の流れを理解して、表現ができる環境を整える。	【取組事項】 ○レディネス問題やアンケートによる子どもの実態把握を行い、その結果を学習計画に反映させる。 ○学習前後の子どもの変化を複数の教員で見取り、情報交換を行うことで、情報の客観性を高める。

その他 取組事項

「アクティブラーニング」の実施と、「指導と評価の一体化」を目指した授業改善に努める。

取組の評価

※プランに示した数値目標は、県教育委員会の取組の指標です。学校の評価指標は、それぞれの課題等の状況に応じて設定することが重要です。

	取組事項	評価指標	1回目評価	2回目評価
全体		児童アンケートによる「学ぶことが楽しい」の強い肯定率が45%以上になる。	A	
視点1	○「老西スタイル」(毎時間の授業の流れ:問題提示→気付き・見通し→一人で考える→共学び→一人で考える→振り返り)の定着	①児童アンケートによる「自分から学ぶことができている」の強い肯定率が40%以上になる。	A	
視点2	○子どもが主体の協働学習「共学び」の定着	②児童アンケートによる「相談して考えを深めることができた」の肯定率が70%以上になる。	A	
視点3	○子どもの実態把握を学習計画に反映	③児童アンケートによる「学習前に比べて、よく分かるようになった」の強い肯定率が60%以上になる。	B	
その他	○アクティブラーニングと、指導と評価の一体化の実施	教職員アンケートの平均値が10月から3か月後に5%アップする。		

評価:【達成状況 90%以上→A 70%以上90%未満→B 70%未満→C 時期→1回目:9月 2回目:2月】

今年度の取組の課題

--